骨髄塗沫細胞診で明らかに出来た乳腺小葉癌の術後再発の1例

熊本総合病院　病理診断科[1)]
熊本労災病院　病理診断科[2)]

○寺園　広太(CT)[1)] 平岡　陽介(CT)[1)]
平江　幸裕(MT)[1)] 猪山　賢一(MD)[1)]
川野　陽子(CT)[2)] 栗脇　一三(MD)[2)]



はじめに

　乳腺浸潤性小葉癌の再発，転移巣では、小葉癌の転移と胃癌（特に、低分化型腺癌ないし印環細胞癌）の転移との鑑別が重要である。

　今回、乳腺浸潤性小葉癌が術後17年目に骨髄転移をきたし、骨髄塗沫細胞診で粘液産生を示す腺癌細胞を同定し、骨髄クロット・セルブロック検体での免疫染色で乳腺小葉癌の骨転移と診断出来た症例を報告する。

症例

- 患者： 60歳代　女性
- 既往歴： 乳癌（17年前）
- 現病歴： 糖尿病、逆流性食道炎
- 臨床経過：

  17年前に右浸潤性乳癌で右乳房全摘術の既往があるも、乳癌の術後経過は良好であった。今回検診で貧血を指摘され、精査目的で当院、血液内科受診となった。

初診時血液データ

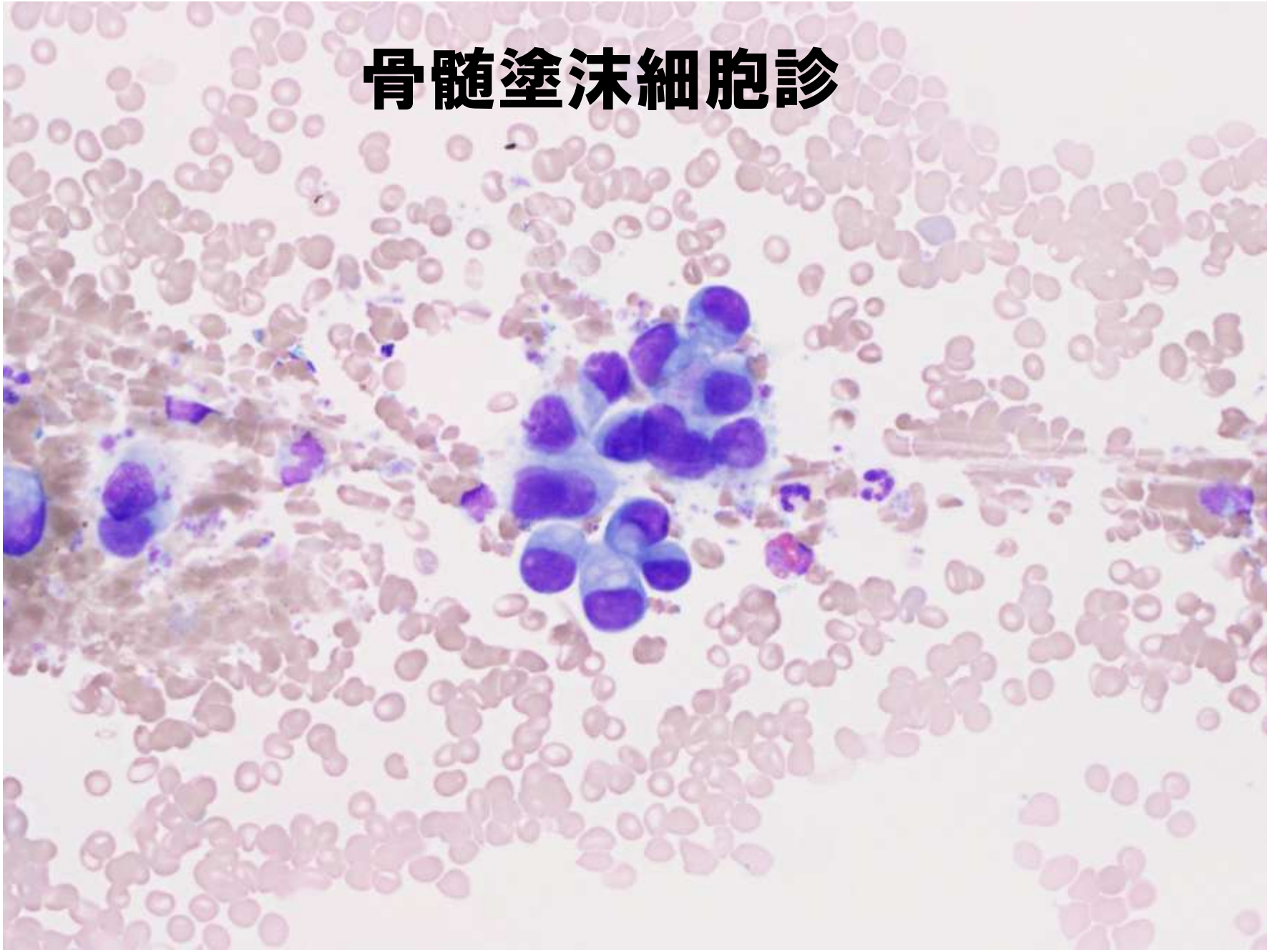
WBC	5490 /μl
RBC	280 10^4/μl
Hb	7.9 g/dl
Ht	25.9 %
MCV	92.5 fl
MCH	28.2 pg
MCHC	30.5 %
PLT	12.6 10^4/μl
NEUT	1.73 10^4/μl
LYMPH	3.34 10^4/μl
MONO	0.31 10^4/μl
EO	0.07 10^4/μl
BASO	0.04 10^4/μl
NRBC	0.36 10^4/μl

目視分類

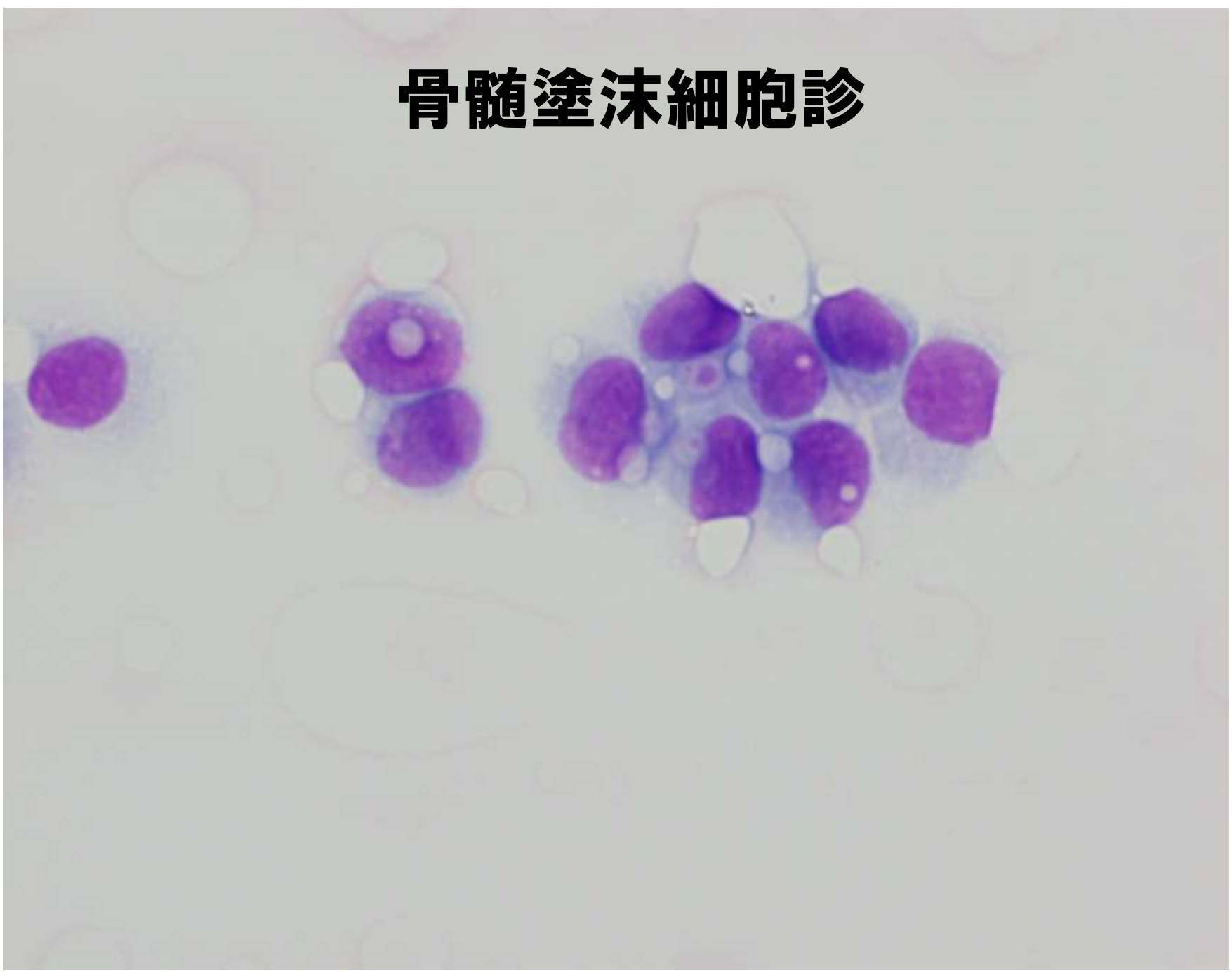
St	3 %
Seg	29 %
Ly	58 %
Mo	8 %
Eo	1 %
Ba	1 %
Erbl	5 /100WBC

赤血球大小不同
多染性赤血球
奇形赤血球

骨髄塗沫細胞診



骨髄塗沫細胞診

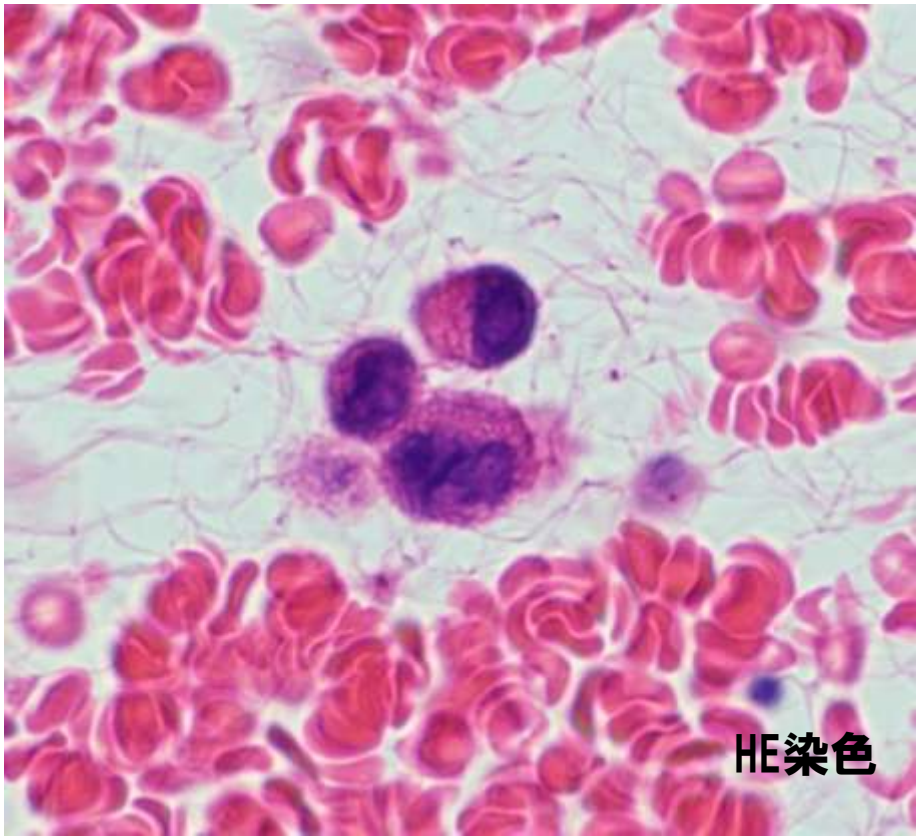


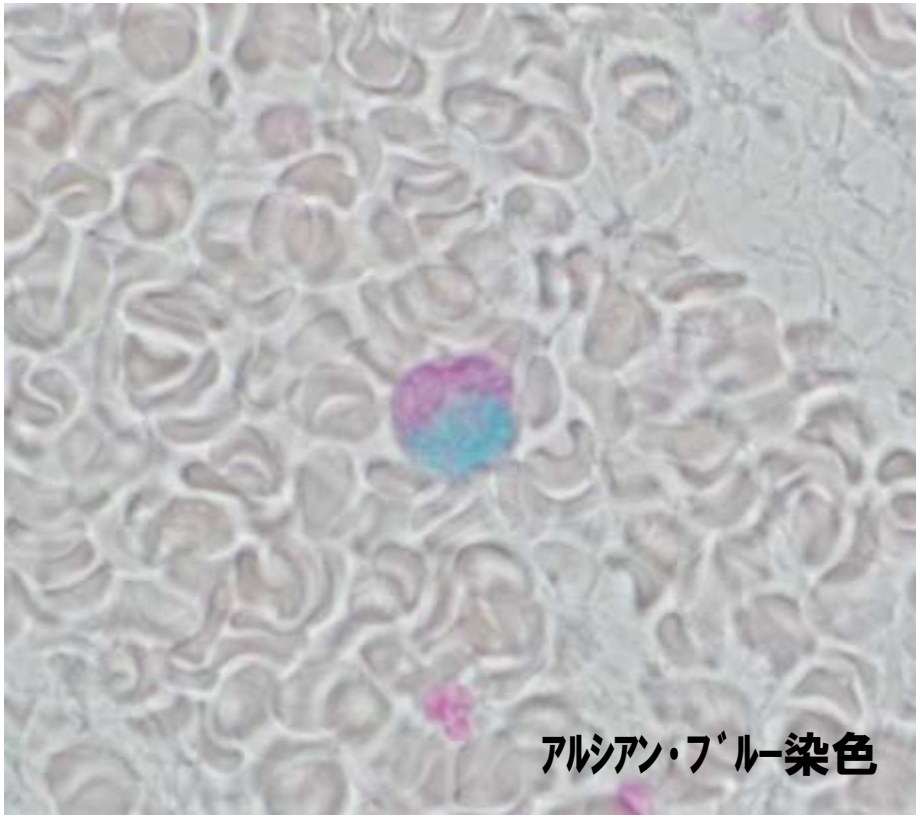
乳癌(特に小葉癌)，胃癌(印環細胞癌)の骨転移を鑑別に挙げ、骨髄セルブロックでの免疫染色，胃内視鏡検査を施行した。

腫瘍マーカーの結果

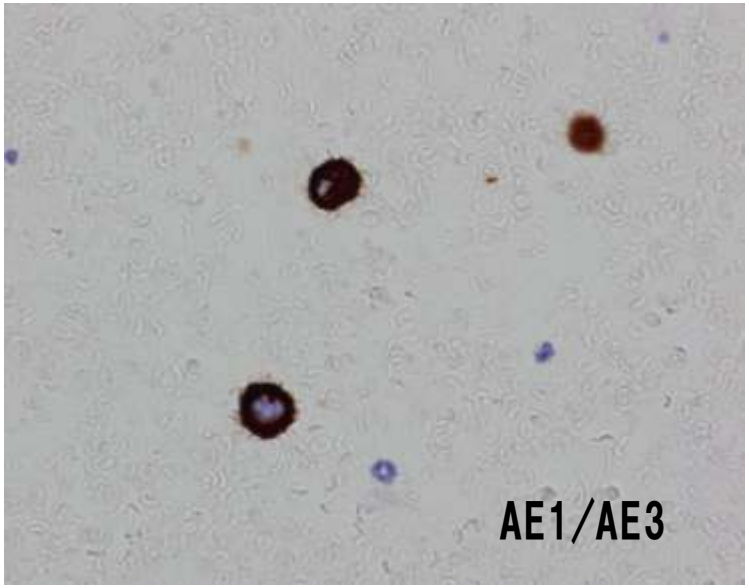
CEA	100.2 ng/ml
CA19-9	5.3 IU/ml
CA15-3	621.6 U/ml

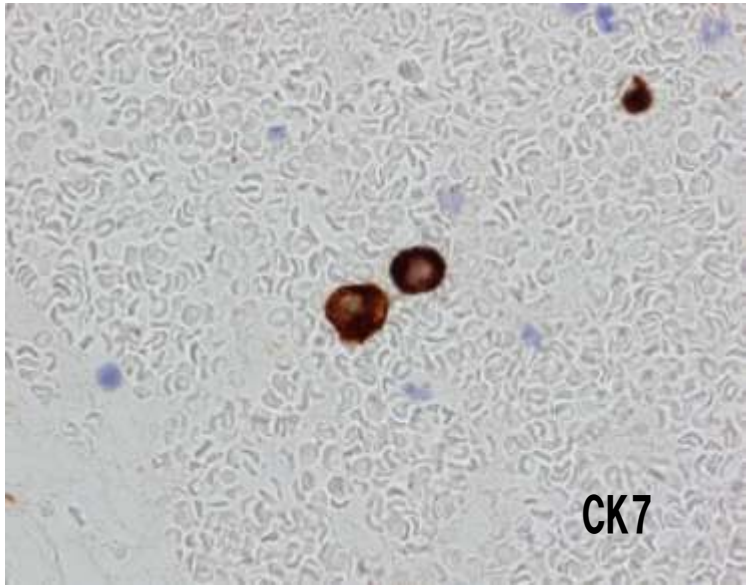
骨髄セルブロック

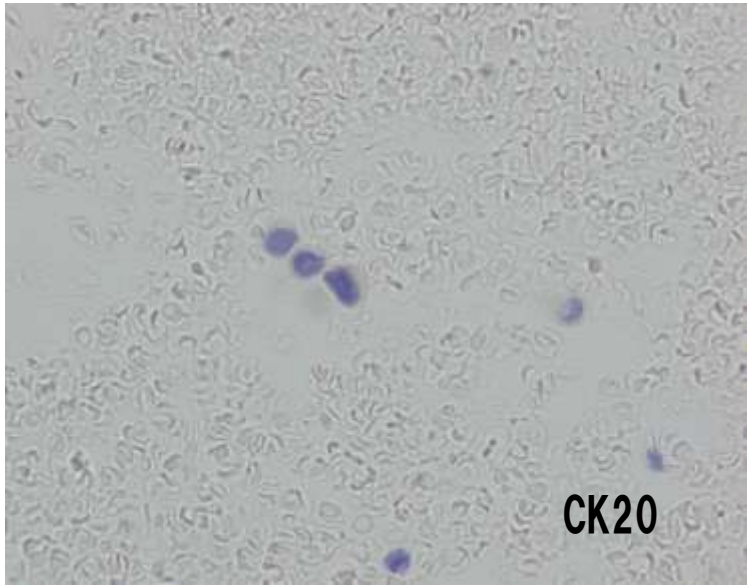




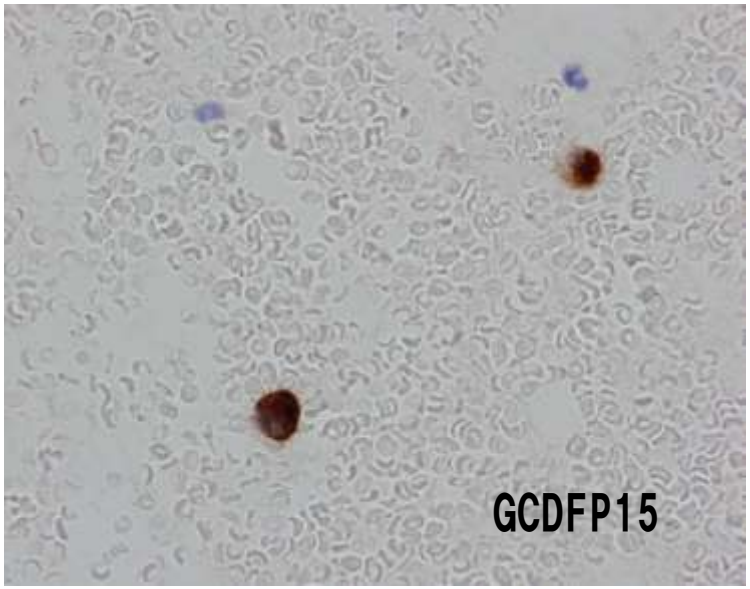
骨髄セルブロックの免疫染色

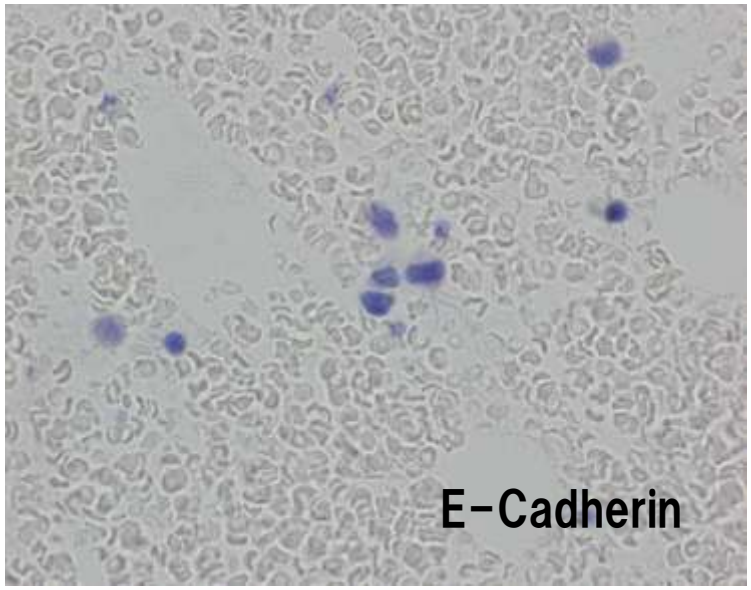


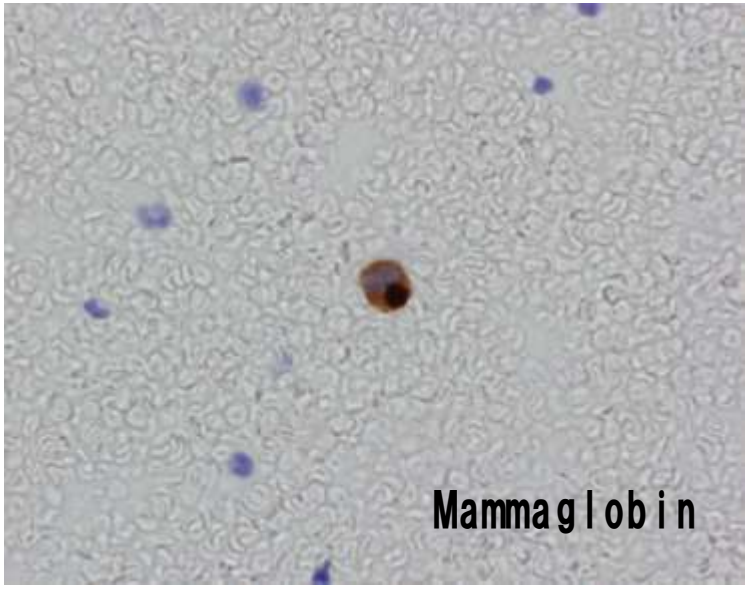




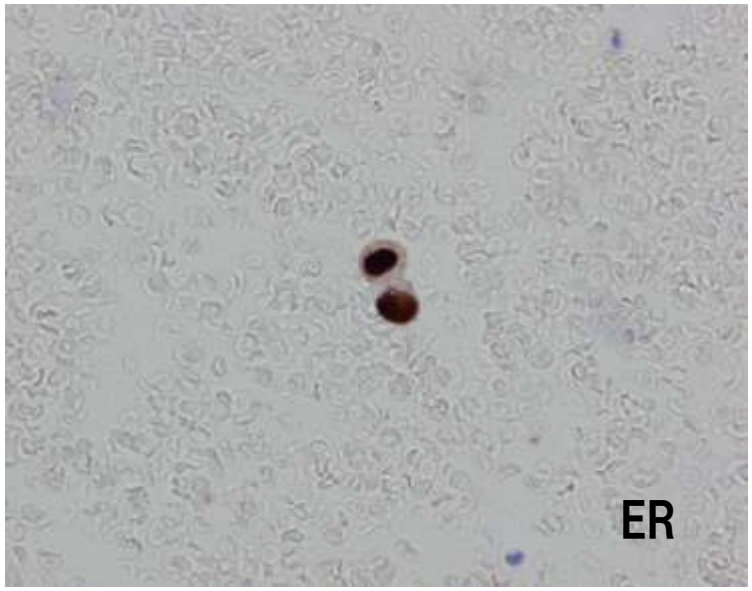
骨髄セルブロックの免疫染色

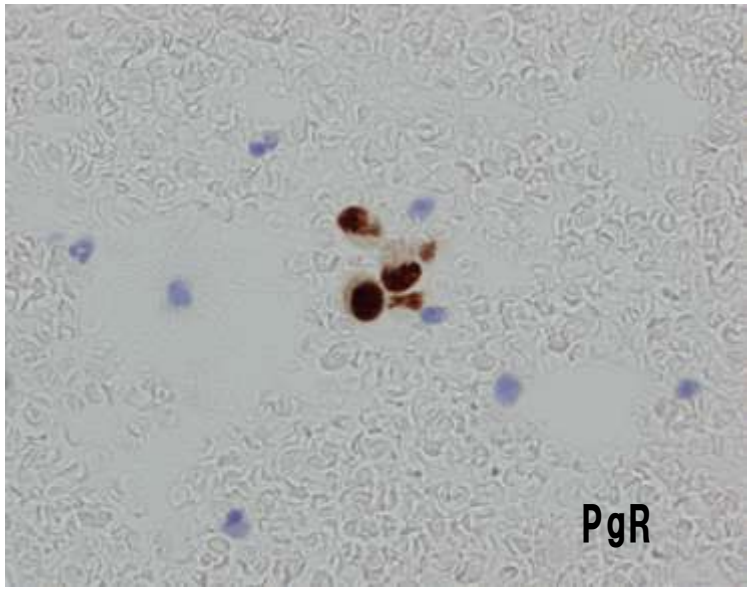


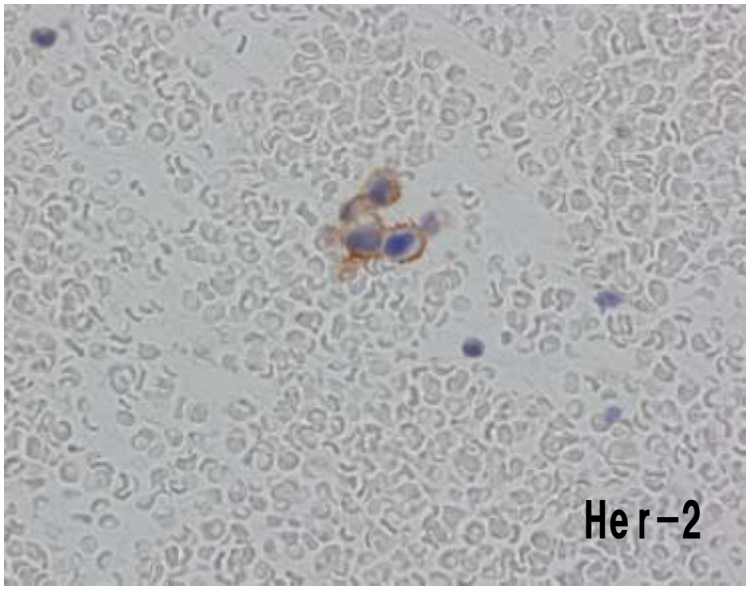




骨髄セルブロックの免疫染色



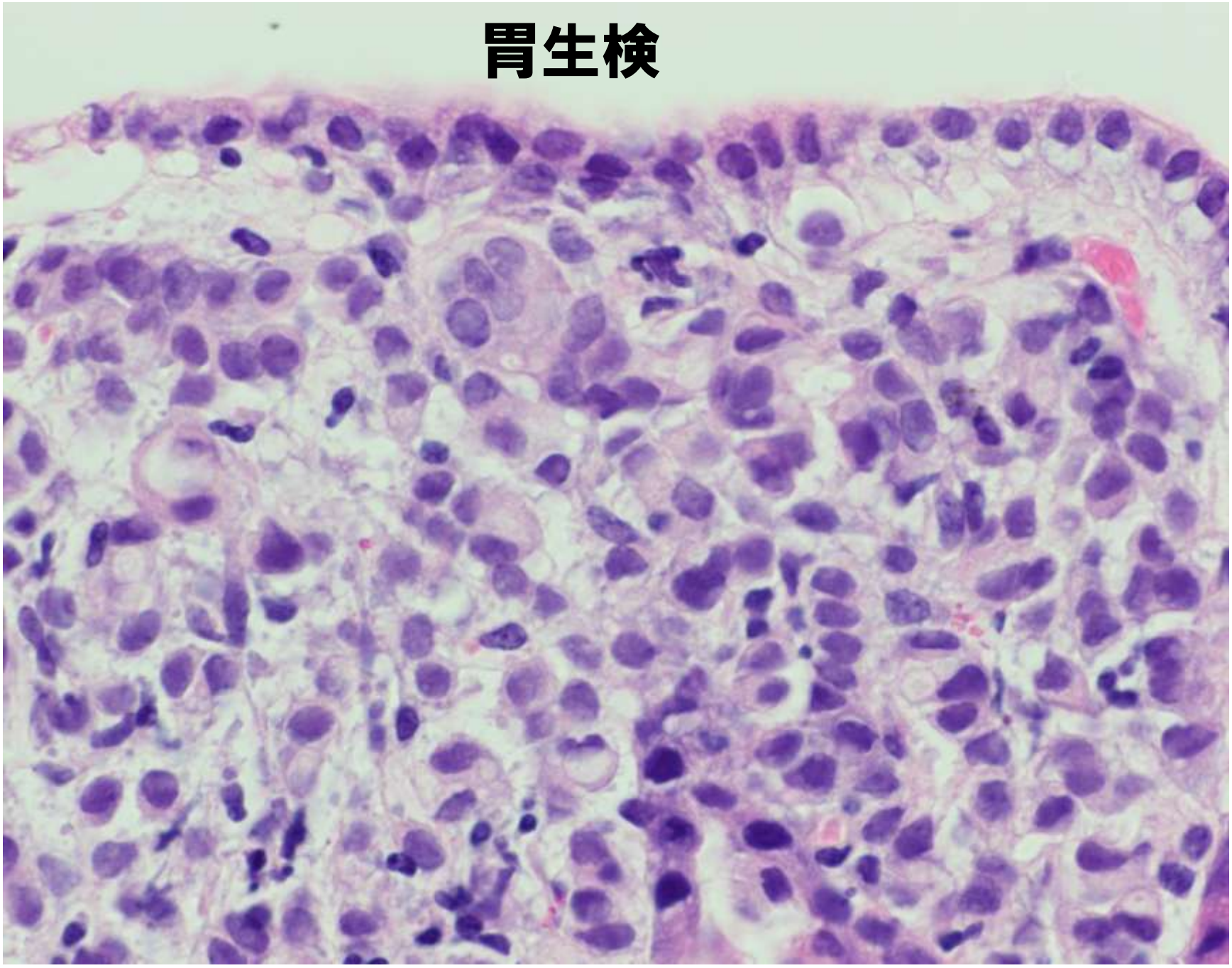




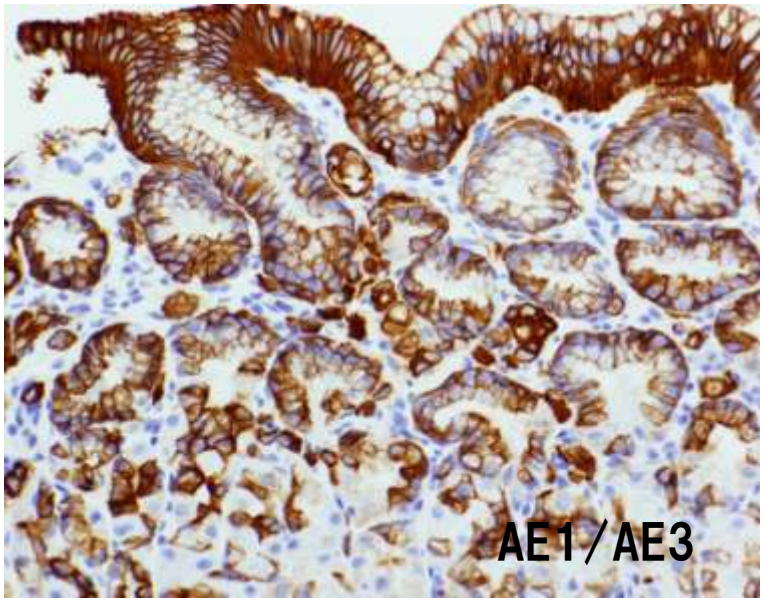
胃内視鏡所見

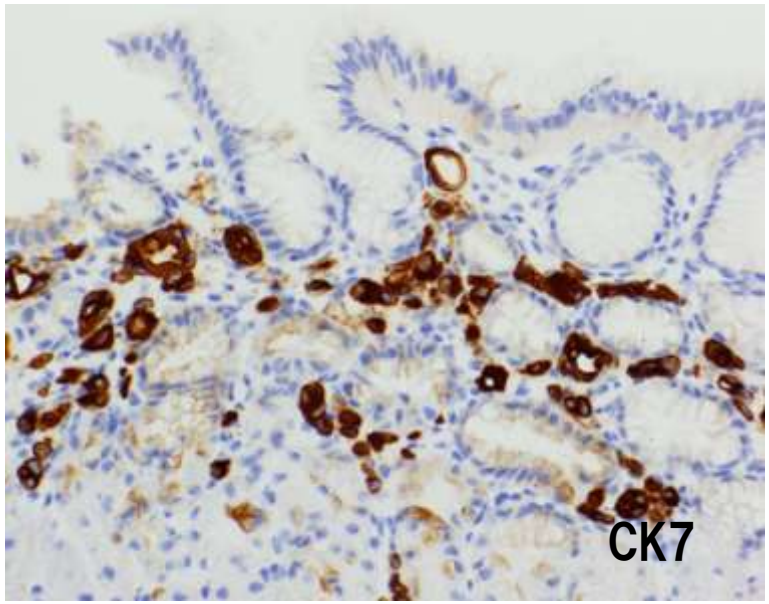


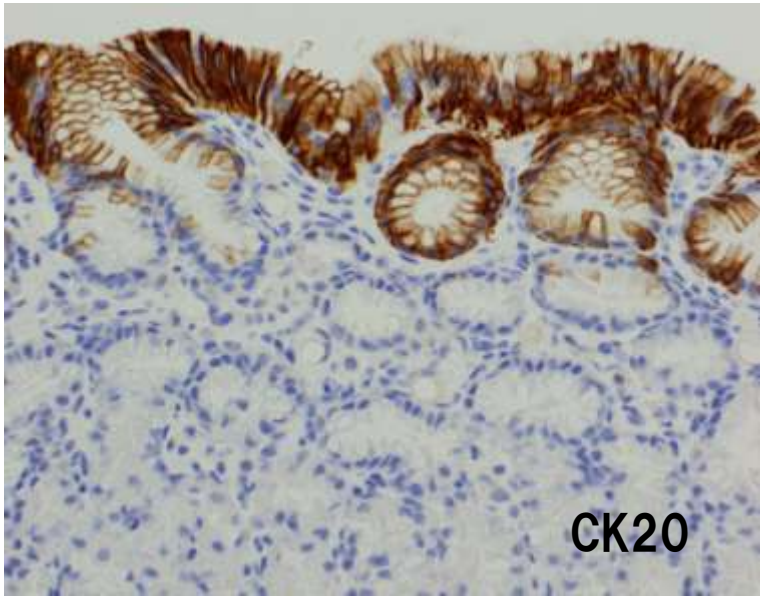
胃生検



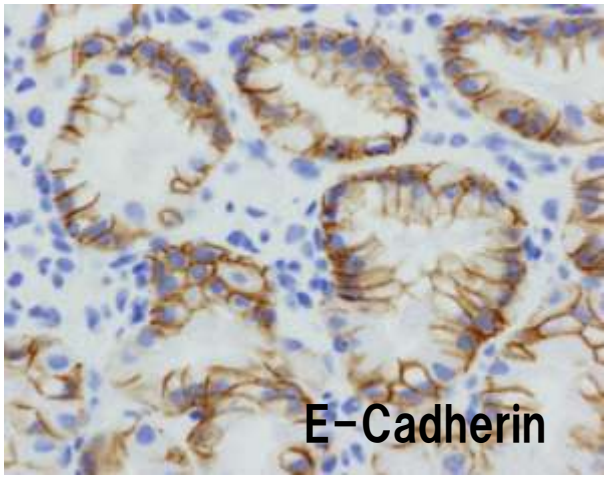
胃生検での免疫染色

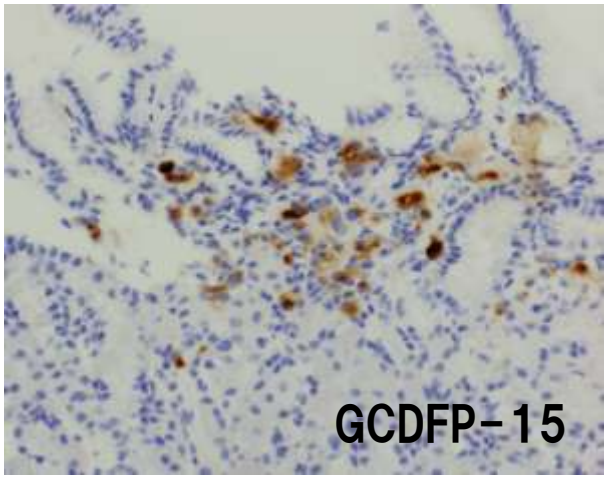


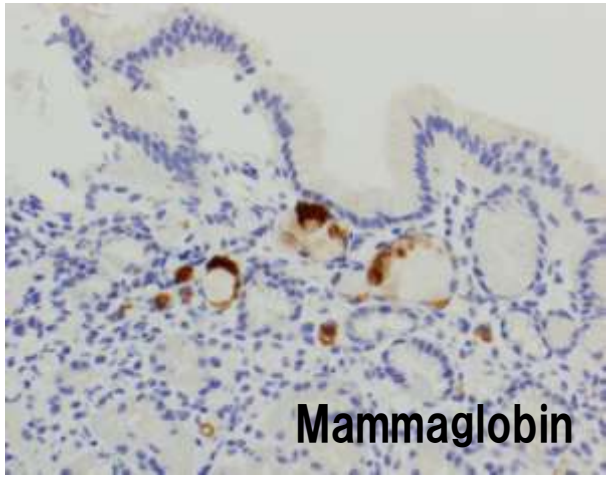


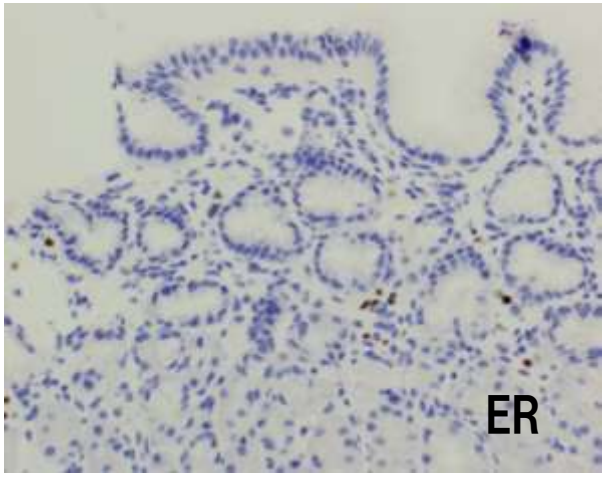


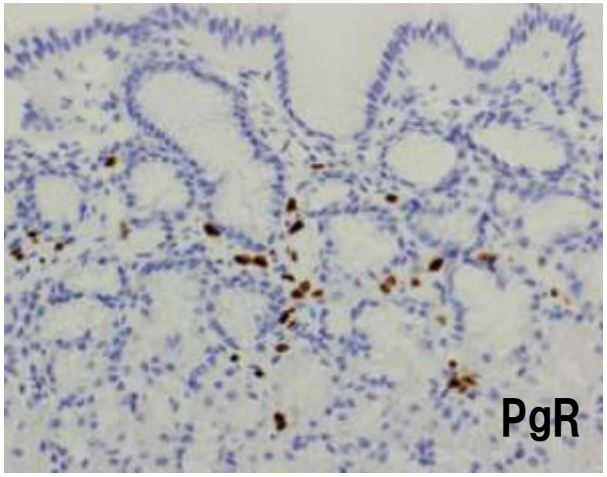
胃生検での免疫染色

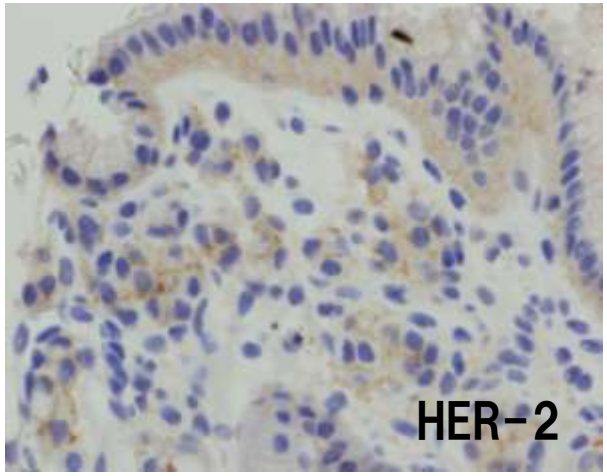




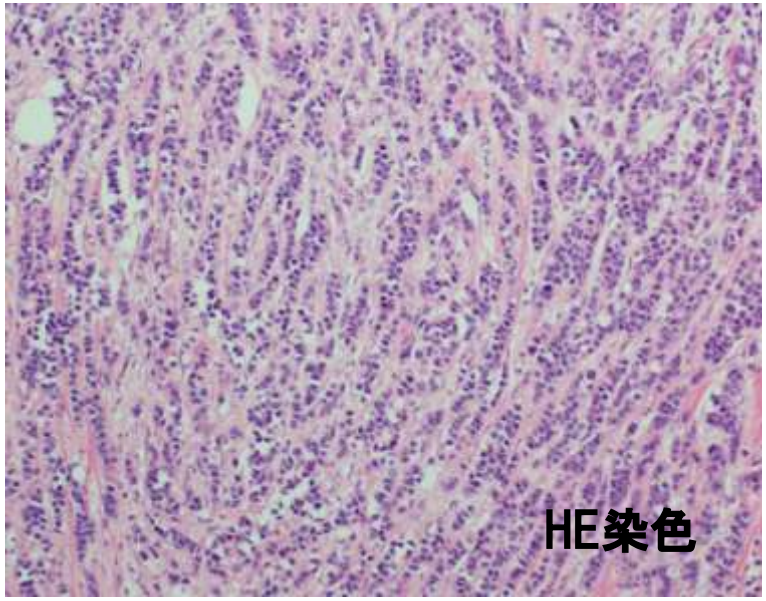


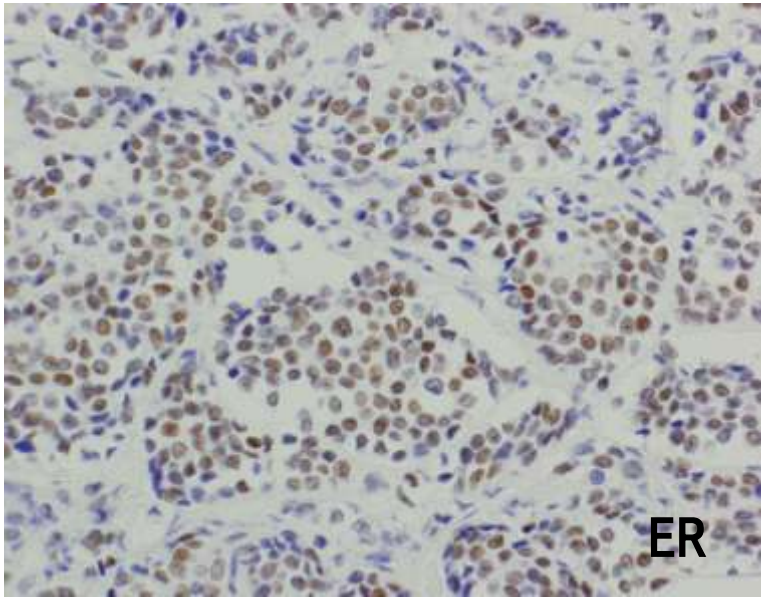


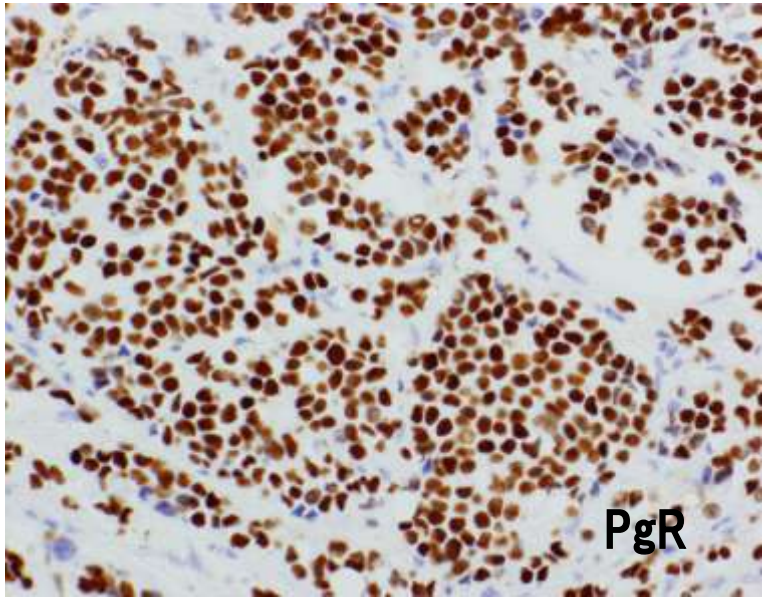


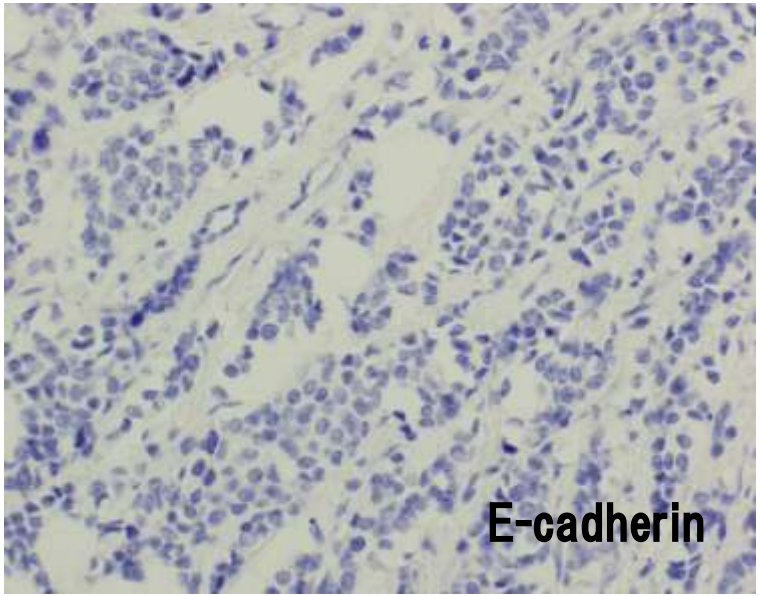


原発巣での免疫染色









まとめ

1. 乳癌術後17年目の経過観察中、貧血を主訴に骨髄塗沫細胞診と骨髄セルブロック標本での免疫染色により乳腺浸潤性小葉癌の骨転移と診断可能であったが、その後の胃精査で胃粘膜病変も同様の癌細胞の転移巣が確認された症例を報告した。
2. 乳癌手術既往症例の貧血、末梢血の赤芽球の出現、骨髄穿刺細胞診での上皮性結合を示す腺系異型細胞の出現，粘液空胞の存在は乳腺小葉癌の骨髄転移や胃を含めた消化管の転移を念頭に慎重に診断することが重要であると思われた。